

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870700147
法人名	株式会社 新風会
事業所名	グループホーム銀河
所在地	愛媛県大洲市徳森字野田1477番地1
自己評価作成日	平成 27年 9月 2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27年 10月 6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

街中に施設があり交通の便も良い、また協力病院も近くにあり定期的な往診や医療連携体制も整えており入居者様に安心して生活していただけるように心掛けています。地域の奉仕作業に参加したり近所の保育園との交流も行っています。運営推進会議にも近隣の方や小学校の校長先生にも来ていただき銀河の活動報告も行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利便性の良い大洲市内中心部にある事業所で、開設16年目を迎えた。事業所では看取りケアを実施しており、地域医療に力を注ぐ医療機関との密な連携に安心感がある。今年度の事業所目標に『一致団結』を掲げ、改めて介護技術、知識のレベルアップやケアの統一に向け日々実践に励んでいる。職員は自主性を持ってスキルを向上させており、思いやり溢れる対応ができている。何よりも利用者の表情が穏やかであり、日々のケアの様子を伺うことができた。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム銀河

(ユニット名) 3F

記入者(管理者)

氏 名 西村 達行

評価完了日 H27 年 9月 2日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念を誰でも見られる場所に掲示して、いつでも確認しながら業務を行っている。 (外部評価) 法人理念と事業所理念を持っている。それら理念を踏まえ、年度末に達成状況や反省等の振り返りの機会を設け、次年度に向けて事業所独自の年間目標を掲げている。今年度は『一致団結』であり、開設16年を経た今改めて介護技術、知識のレベルアップやケアの統一を行うことを目標に日々実践に励んでいる。事業所内掲示や入職時に共有され、経験の浅い職員であっても理念についての意識づけは徹底されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の行事や奉仕作業に参加している (外部評価) 住宅の少ない地域ではあるが、区長の協力を得て回覧板での事業所PRを行ったり、地域清掃活動の参加を継続させている。介護相談員をしていた地域住民が、職を退いても日常的に差し入れを持って訪問してくれる気軽さがある。地域行事である秋祭りには、子供神輿や獅子舞が訪問してくれるほか、近隣の保育所園児とは敬老会等の行事で交流を持ち、読み聞かせや歌等のボランティアにも協力を得ている。	立地上の問題もあるが、事業所としてできることに取り組み、長期に渡り交流できる地域住民の協力がある。地域サロンの情報等地域情報や災害時の避難先としての受入れ等検討しているアイデアがあり、今後交流が広がることに期待できる。これまで続けてきたことを地道に継続し、新しい取り組みにチャレンジして欲しい。その取り組みが広がり、災害時の協力関係作り等幅広く運営に活かせることに期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議にて話しをする機会がある	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議にて行事報告、勉強会についてなど取り組みについて話しをしている。また、結果については業務カンファレンスにて報告を行っている。	
			(外部評価) 市担当者や小学校長、公民館長や元介護相談員であった地域住民、毎年当番制を敷く家族等の協力を得て開催している。会議では事業所の活動報告や防災訓練や勉強会での学習発表や、季節行事を併せて開催する等の工夫がある。年度初めには建物内の見学を行うなど新規参加者にも配慮がある。地域情報を得たり、意見交換ができており、運営につながるアイデアが広がっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 必要な時に連絡は行っている。またグループホーム連絡会に参加して情報交換を行っている。	
			(外部評価) 運営推進会議には毎回、市担当者の参加を得ており、実情を伝えたり情報発信してもらい、相互に協力関係が構築できている。また、大洲市主催のグループホーム連絡会では他事業所とのつながりが深まっており、運営に関する相談や事例検討を行うほか、事業所同士の訪問を実施し、客観的な意見交換ができる交流となっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 勉強会や研修に参加し、カンファレンスにて報告・周知徹底している。	
			(外部評価) 身体拘束をしない方針が根付いている。正しい理解を深めるため、法人での合同研修会や毎月実施される事業所勉強会で学ぶ機会を持っている。拘束につながる行為については、身体面だけでなく言葉がけ等日常のあらゆる場面に潜むため、奥深く今後も学びの機会を継続させたいと話している。玄関はセンサーを活用し、夜間以外の施錠はなく、誰もが自由に入出入りすることができ、安全を確保しながら抑圧感のない暮らしの支援に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修等に参加したり勉強会を行っている。またその報告を業務カンファレンスにて行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 入居者の方に権利擁護を使われている方がおられ、職員から分からないことなど内容について話しをしたりする時もある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 家族に契約前に見学に来ていただき、十分に話しをした上で契約を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱を設置したり、面会時に要望などがないか聞くようにしている。 (外部評価) 利用者には日常生活の中で、家族等にはユニット毎に設置された意見箱のほか、面会時や電話連絡、毎年開催される家族会等で直接意見を伺う機会を大切にしている。面会時には必ず声がけし、毎月発送する請求書類や新聞に担当職員が手紙を添え近況報告をしたり、言うことをためらう家族の心情を察し、言いにくいことも発言できる家族等との関係作りに配慮している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) カンファレンスなど、日常でも話しを聞くようにして管理者会議等で意見を言う時がある。 (外部評価) 管理者やホーム長も業務シフトに入っているため職員の実情を理解しており、日頃から職員と気軽に意見交換したり相談しやすい環境作りに配慮している。さまざまな年代や個々人の希望に配慮した就業環境の整備に努力している。法人各事業所合同で研修を行うほか、献立・環境・在庫・薬・防災担当を設け、各役割に従事しながら自主性やチームワークを高めることができている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 向上心を持って働いてもらえるように努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 月に1回研修に参加、また、勉強会に参加している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 他施設の運営推進会議に参加し交流や情報交換を行っている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) なるべく声掛けし、不安や要望を聞くように努めている。また、事前調査の報告書を確認して対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の話に耳を傾け、関係作りに努めている。また、家族から気軽に世間話をされる時があり、信頼関係も築きつつあると思う。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 気付いた事などを記録に落とし、情報の共有を図り対応している。また、事前調査の報告を確認し対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一緒に洗濯物を畳んだり、出来る事を本人と一緒にしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) お互いに情報共有しながら関係性を築こうと努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) あまり馴染みの人との交流ははかれていない。 (外部評価) 利用者のこれまで培ってきた人間関係や社会との関係を把握することに努め、アセスメントを行いケアカンファレンスで情報を全職員で共有している。また日々の生活の中で新しく知り得た情報は申し送りノートを活用している。事業所を利用するようになってからもこれまで利用してきた美容室へ行くことや墓参り、親戚付き合い等の習慣が継続できるよう家族の協力を得ながら支援に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) スタッフが間に入りコミュニケーションが取りやすいように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 継続した関係性は築けていない。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人が言われたことなどをなるべく意向にそえるよう努力している。困難な場合は家族に意見を聞く時もある。 (外部評価) 日々の生活の中で利用者一人ひとりの希望や意向の把握に努め、申し送りノートの活用で情報を共有している。利用者の何気ない会話の中に現れる希望等の意向に沿えるよう、本人の視点に立った検討を行い実現に努めている。思いを伝えることが困難な状況にあっても、利用者の表情やしぐさから感じ取ったり、家族等に協力を得て検討することができている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 記録に落とし、情報共有が出来るよう努めている。また、家族と電話で話をしたり事前調査の結果を確認したりしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日常生活を確認し、状態把握に努めている。また、業務日誌の情報も確認している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) カンファレンスで話し合い、また家族の意見や要望があれば取り入れている。	
			(外部評価) 利用者毎の担当制を敷き、担当職員が日頃の課題や利用者や家族等の要望を元に原案を起こし、話し合いを行い計画作成担当者が介護計画を作成している。介護計画は誰が見てもわかりやすい表現に配慮され、介護計画に連動した実施記録を詳細に記録しており、根拠あるモニタリングにつながっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 各自記録に落とし、カンファレンスにて情報共有や見直しを行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) その時々に応じて対応出来るように努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 保育園児との交流など地域資源の活用を行えている所もある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 家族の意向も聞き、他の医療機関を受診して頂く事もある。 (外部評価) 協力医療機関と連携し、協力医の往診が月2回実施されるほ か、緊急時の医療連携が確実に行えるよう体制が整ってい る。利用者の殆どが協力医療機関を利用しているが、専門医 の受診等適宜利用者や家族等の希望に沿った医療が受けられ るよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 気付いた事や不安な事など、訪問時には相談するようにして いる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院先の病院と必要な時に連絡を取っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時にも説明し、また主治医から話があった場合は臨時の カンファレンスを開いたり家族と話しをする機会を作ってい る。 (外部評価) これまでに看取り経験があり、現在も1名実施中である。重 度化及び看取りに関する指針を整備し、入居時に説明するほ か、毎年緊急時対応について意向を話し合う機会を設けてお り、状況に応じた柔軟な対応に努めている。法人合同研修会 等で終末期ケアについて勉強する機会を持ち、職員の不安軽 減につなげており、職員は利用者や家族の尊厳を支える看取 りについて真摯な姿勢で取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に救命講習や応急処置についての勉強会を行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害について勉強会を行ったり、自主避難訓練・消防署の方の立ち合いのもと避難訓練も行っている。 (外部評価) 年2回消防署立ち合いにて昼夜想定避難訓練を行いアドバイスを受けている。毎年1名ずつ防火管理者講習会を受講し、その職員が中心となり毎月自主訓練を実施している。居室出入り口には歩行状態や避難完了を示す札を下げ、ユニット見取り図には火元場所や消火器の所在を記している。災害備蓄品として3日程度の食料を備えている。地域住民が参加してくれる運営推進会議では建物内の見学を実施し、構造を認知してもらっている。	災害時対応に対する危機感が高く、毎月の自主訓練や専門的な知識を習得する取組みを行っている。地域の消防団や地元住民から協力承諾を得られているので、実際に訓練に参加してもらい具体的な協力内容などを話し合っている。また災害時に事業所が地域に協力できることについて検討し、相互に地域と協力できる関係づくりに取り組んで欲しい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 目線を合わせ言葉遣いに気を付けて話しをしている。また、言葉かけにも気を付けている。 (外部評価) 2人部屋があり了承の上の利用であっても利用者のプライバシーに気を付けている。また3階ユニットでは玄関正面にトイレがあり、2重カーテンを設置し羞恥心に配慮した対応が行われている。利用者への声かけは敬称で呼ぶのが基本であるが、希望により柔軟な対応をし、利用者本人が納得できるよう支援されている。気になる言葉かけについては職員同士がその都度声を掛け合い注意し合っている。個人情報の利用目的は書面をもって説明され、同意書を取り付けており、適切に管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 自己決定できる入居者に対してはなるべく自己決定出来るように声掛けをしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 忙しい時は、なかなか入居者の希望にそって支援出来ずに職員の都合で動く時もある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 特に決まりもなく、自由にする事は出来る。また、3ヶ月に1回カットを行ったり季節に合わせた服装にも心掛けている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 本人の状態に合わせて食事の提供を行っている。	
			(外部評価) 法人内各事業所で2か月毎に持ち回りで献立を作成している。献立委員が献立内容を確認し、利用者の希望を取り入れながら見直しを行っている。食材は一括配送のものもあるが、殆ど地元の商店から購入し、地域とのつながりを大切にしている。利用者のできることを活かし片付け等を一緒にしながら支援することができている。職員と共に食卓を囲み、和やかな雰囲気の中で同じ食事や手作りのおやつを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量、水分量を記録に落とし状態把握できるようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後はかならずそれぞれの口腔状態に合わせたケアを心掛けている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄パターンを記録しトイレにて排泄できるよう支援している。	
			(外部評価) 日常の食生活や運動を取り入れた健康管理に配慮されている。利用者個々の排泄パターンを把握し、声かけで誘導することでトイレでの自然排泄を大切にしている。重度化によりおむつを利用する利用者も多いが、日中はリハビリパンツを用いたり、2人介助での排泄介助を行っている。布パンツを使用する利用者もあり、状態に合わせた用品の工夫を行いながら、できることを奪わず排泄の自立に向けた支援に取り組むことができている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 牛乳を飲んだり、野菜などの食物繊維を摂ってもらうよう工夫している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 希望に添えるようにしたいが、出来ない場合のほうが多い。	
			(外部評価) 各ユニットに個別浴槽を備え、2日に1回を目安にしながらも健康面に配慮し利用者の希望に応じた対応ができるよう支援している。入浴の苦手な利用者は現在いないが、誘い方や対応に配慮しながら支援する体制がある。2人介助やプライバシーに配慮し、羞恥心を損ねない対応を心掛けながら清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 各居室の温度調節など、快適に休めるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋を業務日誌にはさみ確認できるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 出来る役割は洗濯物や食器拭きなどしていただいている。外出はあまり出来ていない。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 希望があまりなく、外出行事に出かけることが出来る方が主に外出されているが、回数は少ない。 (外部評価) ビル内に事業所はあるが、日常的に階下の花の手入れ等で気分転換を行っている。少人数ずつ普段出かけられないような場所への外出を計画的に楽しんでいる。出かけた先の思い出は、事業所新聞やリビングに掲示され家族等と思い出を共有することもできている。重度化により気軽に外かける頻度が減少傾向にある利用者に着目し、近隣でお茶を楽しむ等の計画がある。気軽に誰もが外出を楽しむことができるように検討、支援することができている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 認知症の進行があり、所持したり使えるような支援は行えていない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙や電話のやり取りはほとんど出来ていない。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 不快のないよう快適に過ごせるように心掛けている。また、季節感のある壁画を作って掲示している。 (外部評価) ユニット毎に利用者の状況や希望に合わせて畳敷きやソファコーナーを設け、くつろぎの空間を作っている。季節の作品を利用者と共に作成し展示したり、外出先でのスナップ写真掲示により思い出話に花を咲かせることができる。明り取りとなっている天窓からは夜空を眺めることもできる。ビルの高階からは大洲市内の眺めや風通しが良い。玄関に一歩足を踏み入ると調理の香りがし、食事を楽しみにする利用者の声が聞こえた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 一人部屋と二人部屋があり、またフロアもあまり広くはないため独りになることは少ないが、各入居者は思い思いに過ごされているように感じる。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れた物を置いてもらうことも自由に出来るので、居心地良く過ごせるよう配慮している。 (外部評価) ベッド、整理箆笥が備えられている。使い慣れたものや好みのもを持ち込んでもらうよう呼びかけ、椅子やクッション、家族の写真を飾り、それぞれに居心地の良いスペースとして使用している。入居以来、自分で身の回りの整理整頓を続けている利用者もおられる。各居室は清潔に整えられ、換気にも配慮されている。2人部屋もあるが、互いのプライバシーが保てるようカーテンで仕切ったり、職員が細やかな配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) フロアも狭く生活することにおいて不便に感じることもある。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870700147
法人名	株式会社 新風会
事業所名	グループホーム 銀河
所在地	愛媛県大洲市徳森 1477番地 1
自己評価作成日	平成 27年 9月 3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27年 10月 6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

代表者がドクターの為、看取りまでのケアを取り組みやすい。 利用者様の笑顔作り、笑いの場を提供している。スタッフが明るく元気なので、利用者様もいきいきされている。 家族様との交流 リハビリ 防災訓練 企画、行事が充実している 人間関係がとても良く、良い雰囲気の中業務が出来ている ケア、書類の統一 介護の知識

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利便性の良い大洲市内中心部にある事業所で、開設16年目を迎えた。事業所では看取りケアを実施しており、地域医療に力を注ぐ医療機関との密な連携に安心感がある。今年度の事業所目標に『一致団結』を掲げ、改めて介護技術、知識のレベルアップやケアの統一に向け日々実践に励んでいる。職員は自主性を持ってスキルを向上させており、思いやり溢れる対応ができています。何よりも利用者の表情が穏やかであり、日々のケアの様子を伺うことができた。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 銀河

(ユニット名) 第一ユニット 5F

記入者(管理者)

氏 名 祖母井 知子

評価完了日 平成 27年 9 月 3 日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 取り組んでいるが、共有、実践は達成できていない。 (外部評価) 法人理念と事業所理念を持っている。それら理念を踏まえ、年度末に達成状況や反省等の振り返りの機会を設け、次年度に向けて事業所独自の年間目標を掲げている。今年度は『一致団結』であり、開設16年を経た今改めて介護技術、知識のレベルアップやケアの統一を行うことを目標に日々実践に励んでいる。事業所内掲示や入職時に共有され、経験の浅い職員であっても理念についての意識づけは徹底されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) ビル型のホームである為になかなか出来ていない。(地域行事の参加) ホームでの新聞を回覧板に載せている。 地区の清掃、保育園児との交流がある。 (外部評価) 住宅の少ない地域ではあるが、区長の協力を得て回覧板での事業所PRを行ったり、地域清掃活動の参加を継続させている。介護相談員をしていた地域住民が、職を退いても日常的に差し入れを持って訪問してくれる気軽さがある。地域行事である秋祭りには、子供神輿や獅子舞が訪問してくれるほか、近隣の保育所園児とは敬老会等の行事で交流を持ち、読み聞かせや歌等のボランティアにも協力を得ている。	立地上の問題もあるが、事業所としてできることに取り組み、長期に渡り交流できる地域住民の協力がある。地域サロンの情報等地域情報や災害時の避難先としての受入れ等検討しているアイデアがあり、今後交流が広がることに期待できる。これまで続けてきたことを地道に継続し、新しい取組みにチャレンジして欲しい。その取組みが広がり、災害時の協力関係作り等幅広く運営に活かせることに期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) ホームでの新聞は、回覧板で回しているが、地域貢献は出来ていない。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 業務カンファレンスにて、運営推進会議で話し合った意見や 要望を報告し、話し合いの場を設けている。	
			(外部評価) 市担当者や小学校長、公民館長や元介護相談員であった地域 住民、毎年当番制を敷く家族等の協力を得て開催している。 会議では事業所の活動報告や防災訓練や勉強会での学習発表 や、季節行事を併せて開催する等の工夫がある。年度初め には建物内の見学を行うなど新規参加者にも配慮がある。地域 情報を得たり、意見交換ができており、運営につながるアイ デアが広がっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議や市のグループホーム連絡会にて情報交換をし たり、説明を受けている。	
			(外部評価) 運営推進会議には毎回、市担当者の参加を得ており、実情を 伝えたり情報発信してもらい、相互に協力関係が構築できて いる。また、大洲市主催のグループホーム連絡会では他事業 所とのつながりが深まっており、運営に関する相談や事例検 討を行うほか、事業所同士の訪問を実施し、客観的な意見交 換ができる交流となっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 全職員が話し合い、出来る限り拘束をしないように取り組ん でいるが、知識や理解が少ない為、今後知識と理解をしてい く必要がある。	
			(外部評価) 身体拘束をしない方針が根付いている。正しい理解を深める ため、法人での合同研修会や毎月実施される事業所勉強会で 学ぶ機会を持っている。拘束につながる行為については、身 体面だけでなく言葉がけ等日常のあらゆる場面に潜むため、 奥深く今後も学びの機会を継続させたいと話している。玄関 はセンサーを活用し、夜間以外の施錠はなく、誰もが自由に 出入りすることができ、安全を確保しながら抑圧感のない暮 らしの支援に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会を開き、スタッフ間で注意しあい、虐待防止を徹底し、行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度についての勉強会実施、外部への研修参加等でもっと理解、知識をつける必要あり。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 事前に見学して頂き説明を行っている。 契約時にも十分な説明を行い、理解・納得が得られるようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱を設置している。 面会時、家族会などで家族さんに、何か要望などがあれば聞き対応をしている。 (外部評価) 利用者には日常生活の中で、家族等にはユニット毎に設置された意見箱のほか、面会時や電話連絡、毎年開催される家族会等で直接意見を伺う機会を大切にしている。面会時には必ず声がけし、毎月発送する請求書類や新聞に担当職員が手紙を添え近況報告をしたり、言うことをためらう家族の心情を察し、言いにくいことも発言できる家族等との関係作りに配慮している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者会議での内容を業務カンファレンスで報告している。又、職員の意見を聞き、管理者会議時に取り上げている。 (外部評価) 管理者やホーム長も業務シフトに入っているため職員の実情を理解しており、日頃から職員と気軽に意見交換したり相談しやすい環境作りに配慮している。さまざまな年代や個々人の希望に配慮した就業環境の整備に努力している。法人各事業所合同で研修を行うほか、献立・環境・在庫・薬・防災担当を設け、各役割に従事しながら自主性やチームワークを高めることができている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 給与水準・労働時間など条件が悪い。管理者までは分かっていた上で向上心は持っていたとしても代表者までは伝わっていない。各自が目標を立て取り組んでいる。研修や勉強会に参加しスキルアップし、日々のケアに活かせるようにしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 会社全体での勉強会や研修会を開き、スキル向上に向けて知識を身に付けている。年間スケジュールを掲示し、希望する研修への参加を自由に行っている。また、事業所内の勉強会を毎月実施している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 合同研修会を年に2回行っている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に事前調査を行い、情報を集め入居時に孤立しないように努めている。 職員全員で話し合い関係作りに努めている。 日々のコミュニケーションにて傾聴している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前調査時に分からなかった情報を面会時や電話にて聞き、要望を取り入れている。又、日々の利用者様の状態を報告している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人と家族様の要望をもとに必要としている事の支援を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員と利用者は一緒に過ごす事によって支え合い、利用者様から学ぶ事等の関係作りを大切にしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族によっては、連絡をしないと来られない。 信頼関係を密にし、出来るだけ要望を取り入れている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) コミュニケーションにて昔の話を聞き、利用者様のはいけいを知り、断ち切らないような支援を心がけている。写真、はがきの郵送を行っている。 (外部評価) 利用者のこれまで培ってきた人間関係や社会との関係を把握することに努め、アセスメントを行いケアカンファレンスで情報を全職員で共有している。また日々の生活の中で新しく知り得た情報は申し送りノートを活用している。事業所を利用するようになってからもこれまで利用してきた美容室へ行くことや墓参り、親戚付き合い等の習慣が継続できるよう家族の協力を得ながら支援に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者様の重度化により個別の支援が多くなっているが、利用者様の間に入りより良い関係が作れるよう支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 必要に応じて相談や今までの経過について説明を行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々会話の中で本人様の意向や思いの把握をし、ケアカン時に話し合いを行い、出来る限り一人一人の思いを尊重している。 (外部評価) 日々の生活の中で利用者一人ひとりの希望や意向の把握に努め、申し送りノートの活用で情報を共有している。利用者の何気ない会話の中に現れる希望等の意向に沿えるよう、本人の視点に立った検討を行い実現に努めている。思いを伝えることが困難な状況にあっても、利用者の表情やしぐさから感じ取ったり、家族等に協力を得て検討することができている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前調査時・契約時・面会時に家族の方に聞いたり、日々の会話の中で本人さんに聞き把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) アセスメントやケアチェックを行い、一人一人の一日の暮らしの流れにそって職員がしっかり観察し、記録に残し、情報把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ケアカンファレンスを実施し、意見交換や提案を行い、利用者様にあった介護計画を作成している。 本人様や家族様の意見や要望が少ないため、介護職員の思いの介護計画になっている。	
			(外部評価) 利用者毎の担当制を敷き、担当職員が日頃の課題や利用者や家族等の要望を元に原案を起こし、話し合いを行い計画作成担当者が介護計画を作成している。介護計画は誰が見てもわかりやすい表現に配慮され、介護計画に連動した実施記録を詳細に記録しており、根拠あるモニタリングにつながっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別に記録をしっかりと記入し、きづいた事などをスタッフそれぞれが書けるノートやメモを貼っておきケアカンファレンスで話し合いや見直しに役立てている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人様や家族様の希望に応じた対応をしている。勉強会を実施し、一方的な見方をしていないか改める事が出来ている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 重度化により、特定の利用者様のみの利用・参加になっている。出来る事を把握して、本人に合わせた力を発揮して頂いている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 必要に応じてかかりつけ医・皮膚科・歯科などの受診・往診を 行っている。	
			(外部評価) 協力医療機関と連携し、協力医の往診が月2回実施されるほ か、緊急時の医療連携が確実にできる体制が整ってい る。利用者の殆どが協力医療機関を利用しているが、専門医 の受診等適宜利用者や家族等の希望に沿った医療が受けられ るよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 日々の変化を医療連携ナースに報告し、適切な指示を頂き蜜 に情報交換を行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院までの経過や生活の状況を情報提供し、退院時には、サ マリーをもらっている。 ドクター・ナースと連携し必要に応じて往診に来ていただき 気をつけること等を助言をもらっている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 終末期に関する指針を定め契約時に説明を行っている。 利用者様の状態の変化がある都度、家族様や本人様の希望に 応じて対応をしている。 地域の関係者とは出来ていない。	
			(外部評価) これまでに看取り経験があり、現在も1名実施中である。重 度化及び看取りに関する指針を整備し、入居時に説明するほ か、毎年緊急時対応について意向を話し合う機会を設けてお り、状況に応じた柔軟な対応に努めている。法人合同研修会 等で終末期ケアについて勉強する機会を持ち、職員の不安軽 減につなげており、職員は利用者や家族の尊厳を支える看取 りについて真摯な姿勢で取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 応急手当の講習を受講して応急時や緊急時の処置が出来るようにしている。事業所内の勉強会にも議題として取り入れている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 自主避難訓練を行い、マニュアルの見直しを行っている。運営推進会議の構成委員の方には、見学して頂いたが地域の方と一緒に訓練を行った事がないので、今後取り組んでいきたい。 (外部評価) 年2回消防署立ち合いにて昼夜想定避難訓練を行いアドバイスを受けている。毎年1名ずつ防火管理者講習会を受講し、その職員が中心となり毎月自主訓練を実施している。居室出入り口には歩行状態や避難完了を示す札を下げ、ユニット見取り図には火元場所や消火器の所在を記している。災害備蓄品として3日程度の食料を備えている。地域住民が参加してくれる運営推進会議では建物内の見学を実施し、構造を認知してもらっている。	災害時対応に対する危機感が高く、毎月の自主訓練や専門的な知識を習得する取組みを行っている。地域の消防団や地元住民から協力承諾を得られているので、実際に訓練に参加してもらい具体的な協力内容などを話し合っていて欲しい。また災害時に事業所が地域に協力できることについて検討し、相互に地域と協力できる関係づくりに取り組んで欲しい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者様を尊重し言葉かけ、態度に気をつけて接している。 (外部評価) 2人部屋があり了承の上の利用であっても利用者のプライバシーに気を付けている。また3階ユニットでは玄関正面にトイレがあり、2重カーテンを設置し羞恥心に配慮した対応が行われている。利用者への声かけは敬称で呼ぶのが基本であるが、希望により柔軟な対応をし、利用者本人が納得できるよう支援されている。気になる言葉かけについては職員同士がその都度声を掛け合い注意し合っている。個人情報の利用目的は書面をもって説明され、同意書を取り付けており、適切に管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者様のペースに合わせた対応を心がけている。重度化により働きかけを行っているが自己決定が出来ない為、職員が決めている事もある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人様の希望にそった支援を心がけているが職員側の都合を優先している事がある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 出張美容に来ていただいている。 外出時は、おしゃれが出来るよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の準備、片づけを利用者様と一緒にやっている。 出来る利用者様には手伝ってもらい、フロアーで職員が間に入りサポートし、会話をしながらゆっくりと食事が出来ている。 (外部評価) 法人内各事業所で2か月毎に持ち回りで献立を作成している。献立委員が献立内容を確認し、利用者の希望を取り入れながら見直しを行っている。食材は一括配送のものもあるが、殆ど地元の商店から購入し、地域とのつながりを大切にしている。利用者のできることを活かし片付け等を一緒にしながら支援することができている。職員と共に食卓を囲み、和やかな雰囲気の中で同じ食事や手作りのおやつを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 水分・食事チェックを行い、個々の摂取量を把握している。 体調や状況に応じて対応をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の歯磨きの声かけやスポンジでの口腔ケアを行い、うがい薬も使用している。 週に2回義歯の洗浄（ポリデント）を行い、出来ない時には、時間を置いて行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄パターンを把握して、失敗を減らすようにしている。 定期的なトイレ・オムツの声かけを行い、失敗があってもさりげない声かけをし介助を行っている。必要な方は、職員二人でのトイレ介助を行っている。	
			(外部評価) 日常の食生活や運動を取り入れた健康管理に配慮されている。利用者個々の排泄パターンを把握し、声かけで誘導することでトイレでの自然排泄を大切にしている。重度化によりおむつを利用する利用者も多いが、日中はリハビリパンツを用いたり、2人介助での排泄介助を行っている。布パンツを使用する利用者もあり、状態に合わせた用品の工夫を行いながら、できることを奪わず排泄の自立に向けた支援に取り組むことができている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分摂取量を把握し、食事、水分の工夫をしている。 医師の処方による薬で対応する事もある。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 希望に添って、入浴の支援を行っている。 介助が必要となり入浴を楽しめてはいないと思う。	
			(外部評価) 各ユニットに個別浴槽を備え、2日に1回を目安にしながらも健康面に配慮し利用者の希望に応じた対応ができるよう支援している。入浴の苦手な利用者は現在いないが、誘い方や対応に配慮しながら支援する体制がある。2人介助やプライバシーに配慮し、羞恥心を損ねない対応を心掛けながら清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 体調や個々に合わせて休息を取り入れている。 定期的に体位交換を行い、体位の工夫をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の説明や医師の指示により薬の用法に注意し、利用者様の体調管理に気をつけているが、副作用までは把握できていない。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) いろいろな行事を取り入れホーム内での活動だけではなく、外出する機会も作っている。 役割を持っていただき、出来る事をして頂いている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出には家族の協力が難しく、一人一人の希望に沿っての支援はできていない。 (外部評価) ビル内に事業所はあるが、日常的に階下の花の手入れ等で気分転換を行っている。少人数ずつ普段出かけられないような場所への外出を計画的に楽しんでいる。出かけた先の思い出は、事業所新聞やリビングに掲示され家族等と思い出を共有することもできている。重度化により気軽に外かける頻度が減少傾向にある利用者に着目し、近隣でお茶を楽しむ等の計画がある。気軽に誰もが外出を楽しむことができるように検討、支援することができている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金の管理は、所持されている方がいないため全面的に職員が行っている。 買い物時には、職員が所持し、利用者様のレベルに合わせて支援を行っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人様の希望時には、対応している。 年賀状を毎年書かれている方がおられるので、今後も継続していきたい。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) フロア内はスペースが狭く不便な事も多いが、出来るだけ居心地よく過ごしていただけるよう季節感がある壁画を掲示したり工夫をしている。 車椅子の移動に余裕のない場所や必要な場所に手すりがないところがある。お風呂場が狭く、使いにくい。 (外部評価) ユニット毎に利用者の状況や希望に合わせて畳敷きやソファコーナーを設け、くつろぎの空間を作っている。季節の作品を利用者と共に作成し展示したり、外出先でのスナップ写真掲示により思い出話に花を咲かせることができる。明り取りとなっている天窓からは夜空を眺めることもできる。ビルの高階からは大洲市内の眺めや風通しが良い。玄関に一歩足を踏み入れると調理の香りがし、食事を楽しみにする利用者の声が聞こえた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファに利用者様同士やスタッフが座り会話をしたり、くつろげるようにしている。 建物が狭く、二人部屋もある為、個別の空間は難しい。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人様のダンスや趣味のものを置いたり、写真や作品を飾り居心地よく過ごせるよう工夫をしている。 居室が狭いためあまり配慮が出来ない。 (外部評価) ベッド、整理箆笥が備えられている。使い慣れたものや好みのもを持ち込んでもらうよう呼びかけ、椅子やクッション、家族の写真を飾り、それぞれに居心地の良いスペースとして使用している。入居以来、自分で身の回りの整理整頓を続けている利用者もおられる。各居室は清潔に整えられ、換気にも配慮されている。2人部屋もあるが、互いのプライバシーが保てるようカーテンで仕切ったり、職員が細やかな配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 自室の入り口には名前や写真を貼り、わかりやすいような工夫をしている。	